



創誠健和



R7旭中キーワード

「世界一優しい学校」

旭川中学校 学校通信 卒業式号

令和8年3月12日発行

「憧れの背中」を残して

～3年生が築いた足跡～

3年生教室前の“カウントダウンカレンダー”の日にちが少なくなっていき、いよいよ明日、3年生は卒業式を迎えます。3年生のみなさんがこの3年間で築き上げたものは、学校全体を温かく包み込む「空気感」だったと感じています。

□ 心地よい調和と「素直さ」という宝物

今年の3年生を語る上で欠かせないのが、その「素直さ」です。大人言葉を真っ直ぐに受け止め、自分たちの成長の糧にする力がありました。また、男女の垣根がなく、互いを一人の友人として尊重し合える関係性も大きな特徴です。教室に流れる穏やかで仲の良い空気は、後輩たちにとっても安心できる学校の雰囲気を作ってくれました。

□ 背中で語るリーダーシップ：体育フェス・旭中フェス

春の体育フェスでは、リーダーたちが自ら進んで「仕事」を見つけ、率先して働く姿があり、とても印象に残っています。旭中フェスでは、指揮者・伴奏者・パートリーダーなどが中心となって練習を進め、学級全員で力を合わせて発表した合唱は圧巻でした。ステージ発表では劇やダンスの演者、音響・照明、大道具・小道具、動画編集など、それぞれの役割をしっかりと果たし、全員で創り上げました。発表の最後にステージ前に集まった3年生の表情は、まさに最高学年としての誇りに満ちていました。

□ 部活動での躍動と、それを支えた仲間を思いやる「優しさ」

部活動においても、数多くの感動をもらいました。コートや舞台上で輝く主役はもちろんですが、忘れてはならないのが仲間を全力で応援する姿です。自分の出番でなくても、仲間の勝利を願い、ミスを励ます。その優しさで一体感こそが、本校の部活動をより強く、美しいものにしてくれました。

□ 後輩たちが抱く「憧れ」の心

そんな3年生の姿を見てきた1・2年生からは、「自分たちも、あんな先輩になりたい」という声が多く聞かれます。“困っている時にさりげなく声をかけてくれる優しさ”、“行事を全力で楽しむ熱量”、“当たり前なことを当たり前にやりとげようとする誠実さ”。3年生が残してくれたこの「憧れ」という種は、これからの学校生活の中で、後輩たちの手によって大切に育てられていくことでしょう。

明日卒業するみなさんへ

3年生の素直さと優しさは、周囲を幸せにする力をもっています。自信をもって、新しい世界へ羽ばたいてください。

卒業生へエールを送るとともに、旭中はいつまでも皆さんのサポーターであり続けたいと思います。



□■卒業生合唱■□

『YELL』

いきものがかり

作詞：作曲 水野良樹

「わたし」は今 どこに在る(ある)の」と
踏みしめた足跡を 何度も見つめ返す
枯葉を抱き 秋めく窓辺にかじかんだ指先で夢を描いた

翼はあるのに 飛べずにいるんだ
ひとりになるのが 恐くて つらくて
優しいひだまりに 肩寄せる日々を
越えて 僕ら 孤独な夢へと歩く

サヨナラは悲しい言葉じゃない
それぞれの夢へと僕らを繋ぐ YELL
ともに過ごした日々を胸に抱いて
飛び立つよ 独りで 未来(つぎ)の 空へ

僕らはなぜ 答えを焦って
宛ての無い暗がりに 自己(じぶん)を探すのだろう
誰かをただ 想う涙も 真っ直ぐな 笑顔も
ここに在るのに

永遠など無いと 気づいたときから
笑い合ったあの日も 唄い合ったあの日も
強く 深く 胸に 刻まれていく
だからこそあなたは だからこそ僕らは
他の誰でもない 誰にも負けない
声を 挙げて “わたし” を生きていくよと
約束したんだ ひとり ひとつ 道を選んだ

サヨナラは悲しい言葉じゃない
それぞれの夢へと僕らをつなぐ YELL
いつかまためぐり逢うそのときまで
忘れはしない誇りよ 友よ 空へ

僕らが分かち合う言葉がある
ところからところへ 声を繋ぐ YELL
ともに過ごした日々を胸に抱いて
飛び立つよ 独りで 未来(つぎ)の 空へ



◆◇在校生合唱◇◆

『栄光の架け橋』

ゆず

作詞：作曲 北川悠仁

誰にも見せない泪があった
人知れず流した泪があった
決して平らな道ではなかった
けれど確かに歩いて来た道だ
あの時思い描いた夢の途中で今も
何度も何度もあきらめかけた夢の途中

いくつもの日々を越えて 辿り着いた今がある
だからもう迷わずに進めばいい
栄光の架け橋へと…

悔しくて眠れなかった夜があった
恐くて震えていた夜があった
もう駄目だと全てが嫌になって
逃げ出そうとした時も
思い出せばこうしてたくさんの
支えの中で歩いて来た

悲しみや苦しみの先に それぞれの光がある
さあ行こう 振り返らず走り出せばいい
希望に満ちた空へ…

誰にも見せない泪があった
人知れず流した泪があった

いくつもの日々を越えて
辿り着いた今がある
だからもう迷わずに進めばいい
栄光の架け橋へと
終わらないその旅へと
君の心へ続く架け橋へと…



歌詞の中に、きっと自分と重なるところがある
のではないのでしょうか？ 明日、1人ひとりの想いを
込めて、187人で素敵な卒業式を創りましょう。